

東名古屋病院だより

平成30年1月発行 第70号



理 念

私たちは、医の倫理を守り、患者さんの気持ちを尊重し、より質の高い医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんへの医療内容の説明と患者さんの同意を医療の基本とします。
2. 地域に密着し、心の触れ合いを大切にした医療を提供します。
3. 常に自己研鑽に励み、医療人としての専門的知識・技術の習得に努め、皆様に信頼される安全で最新の医療を提供します。
4. 健全な経営を維持して療養環境の整備に努め、安心して快適に療養できる病院を目指します。

目 次

2 P : 巻頭言
3 P : 病気とのつきあい方
4 P : 看護部紹介
5 P : 部署紹介

6 P : 新年のご挨拶、トピックス
8 P : 情報提供(療育の紹介)
9 P : 地域医療連携室
10P : 外来案内、外来診察担当医表



独立行政法人 国立病院機構
東名古屋病院
NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION
HIGASHI NAGOYA NATIONAL HOSPITAL



〒465-8620
名古屋市名東区梅森坂5-101
TEL 052-801-1151
FAX 052-801-1160
ホームページアドレス
<http://www.tomei-nho.jp/>

謹賀新年



外科系診療部長 加藤 俊之

今年が皆様にとって幸多き年となりますようお祈り申し上げます。

右のポスターをご存知ですか。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、バンコマイシン耐性腸球菌、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性アシネトバクター、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌など、薬剤耐性菌感染に関連したニュースが聞かれない年はなく、薬剤耐性は世界中が直面する懸案となっています。

1928年にペニシリンが発見されて、人類は細菌感染症と闘う手段を手にしました。しかし、1940年にはペニシリンに耐性を示す細菌からペニシリンを無効化する酵素が発見され、薬剤耐性との闘いが始まりました。1960年代には新しい抗菌薬が次々と開発され、細菌感染症との闘いに勝利できるかと思われました。ところが1980年代になると、病院を中心に新たな薬剤耐性菌が猛威を振るうようになり、さらに現在では、薬剤耐性菌は医療機関に止まらず市中でも蔓延し、重大な問題となっています。

薬剤耐性菌発生の要因は、不必要な抗菌薬投与や不十分な抗菌薬治療によると考えられます。また、抗菌薬は家畜など人以外にも大量に使用されています。

世界保健機関（WHO）は、人や動物などを一体とした世界的な取組が必要との認識に基づき、2015年に「薬剤耐性に関する国際行動計画」を採択しました。我が国では2016年4月に「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」を策定し、2020年までのAMR対策目標を定めました。その中で「抗微生物薬の適正使用」は最も重要な項目です。我が国における



抗菌薬使用の特色は経口抗菌薬の使用が多いことであり、また、抗菌薬治療の対象ではない疾患に対する投与など不適切な使用があることが問題となっています。

昨年6月に厚生労働省は医療従事者を対象とした「抗微生物薬適正使用の手引き」を発表しました。この手引きには抗菌薬の不適正使用の防止について具体的に記載されており、医療従事者にこれを遵守するとともに患者に適正使用の必要性について伝えることを求めています。

そこで冒頭のポスターです。昨年厚生労働省が作成したAMR対策への協力を呼びかけるポスターですが、「あなたにできること」が記載されています。皆様の御協力をお願い致します。

東名古屋病院では、感染対策および抗菌薬適正使用を推進し、皆様により安全安心な医療を提供できるよう努めさせていただきます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

病気とのつきあい方

難聴について



耳鼻いんこう科医師 伊藤 陽子

平成28年4月から、当院に耳鼻いんこう科が新しく開設されました。

耳鼻咽喉科は、文字通り「耳」「鼻」「のど」を専門にしています。

その中には、聴覚、嗅覚、味覚、呼吸、発声、摂食嚥下、平衡感覚、といった人間が生きていく上で重要な機能がたくさんあります。

その中から、今回は「聴覚」についてとりあげてみます。

音を聞くということと、言葉を理解することとは違います。音の情報は耳から入って内耳（蝸牛）で電気的信号に変換され、脳に伝わります。脳では、左脳は言葉を、右脳は音楽などを聞き取るように音の情報を処理します。音や言葉を認識し理解するのは「脳」の働きなのです。

難聴になり耳からの音の信号が少なくなると、脳への情報・刺激が減ることになります。会話による人とのコミュニケーションも取りにくくなります。このため難聴は認知症の危険因子のひとつとされており、難聴に対して早めの対策をとることが認知症の予防につながるといえます。

人は年齢を重ねると、どなたでも徐々に聞こえが悪くなっていきます。

自分では「難聴」と感じなくても、言葉が聞き取りにくい、聞き間違いが多い、

タイマーの“ピピピ”音が聞こえないなど心当たりはありませんか？

それは年齢による難聴のはじめの症状かもしれません。

難聴の原因は加齢変化以外にも様々です。「歳のせい」と思っていた難聴や耳鳴りが、実は耳の病気であったということもあります。

突発性難聴などの急性感音難聴は、発症から1ヶ月以内に治療を開始しなければ聴力改善は難しいといわれています。

慢性中耳炎や耳硬化症、耳小骨離断など、手術により聴力改善が期待できる病気もあります。

また、治療しても改善しない難聴や加齢による難聴に対しては、補聴器が有効な場合があります。

聞こえが悪くなって、周りとのコミュニケーションがうまく取れないと、本人は仲間はずれにされたとか、無視されたと感じることもありますし、周りの方は思いが伝えられなくて残念に思われるでしょう。

まずはご自分の「聞こえ」について、正確に知ることが大切です。そして難聴がある場合は、適切な対応が必要となります。

聞こえのことで気になることがありましたら、お気軽に耳鼻いんこう科でご相談ください。



広い?or白い?

1時?or7時?

加藤さん?or佐藤さん?

看護部紹介

外来紹介



外来看護師長 橋口 桂子

当院の外来は呼吸器内科・呼吸器外科・神経内科・循環器内科・皮膚科・整形外科・消化器内科・消化器外科・脳神経外科・血液腫瘍内科・泌尿器科・乳腺外科・耳鼻科・歯科口腔外科など23の診療科と感染症専門外来を設けています。

他にセカンドオピニオン・人間ドック・健康診断や海外渡航用ワクチン接種などを行っています。また健康促進を目指した、禁煙外来、乳がん検診、肺がん検診、骨粗鬆症検診などを実施しています。今回はそれらの検診について紹介します。

禁煙外来

禁煙外来は、12週間に計5回の受診で医師による診察と治療薬の処方、看護師によるカウンセリングを受けていただきます。それぞれの患者さんに合った禁煙方法を提示し「卒煙」をめざしています。最近「看護師に親切に関わってもらい禁煙できた」と紹介されて来ました」と来院された患者さんもみえました。呼吸器内科外来（Aブロック）の掲示板にこれまでに禁煙に成功された方の感想を掲示していますので、ぜひご覧ください。

乳がん検診

乳腺外来では専門医による問診と視触診による診察を行っています。最新のマンモグラフィやエコーで乳がんの早期発見に努めています。症状が無くても、年に一度の検診をお勧めしています。乳がん検診は、診察予約はいりませんので当日検診、診察ができます。

骨粗鬆症検診

骨粗鬆症は骨折等の基礎疾患となることから、早期に骨量減少を発見し、骨粗鬆症の予防をしていただくため、名古屋市在住の女性を対象に検診を実施しています。検査内容は、X線を使った骨量検査です。苦痛がなく、短時間で行われる検査です。

外来では、診察時の処置介助や患者さんの状態や症状に合わせた看護と、救急対応はじめ、抗がん剤治療、輸血療法などの介助も行い、幅広い知

識・技術をもつ看護師が対応させていただきます。

昨年からは患者さん・ご家族様を対象に第3火曜日11時30分から30分間、食事中のむせ 食べやすくするひと工夫、骨粗鬆症についてなど外来ミニ講座を開催しています。今後の予定は掲示板で案内しています。また、外来便りを発行し、診療科毎の症状や疾患などについて紹介をしていますので読んでいただけたらと思います。



外来ミニ講座（骨粗鬆症について）

お待ち頂いてる間、外来だよりや間違い探しなどの脳トレ用紙を設置いたしましたのでご利用ください。



脳トレコーナー

患者さんに安心して通院していただけるよう、スタッフ一同、優しい口調、思いやりの心、いつも笑顔でをモットーにしています。どのようなことでも気軽に声をかけください。

部署紹介

事務部の紹介

事務部は病院の管理部門として企画課、管理課、経営企画室で組織されています。患者さんへの対応や診療のサポートなどの医療に関わる業務から、官公庁への届出や人事管理、建物管理など、病院の多種多様な業務を行っています。

医療部門がよりよい医療を提供するために、事務部門は病院の管理・運営に弛まぬ努力をしています。事務部職員は「私たちは、医の倫理を守り、患者さんの気持ちを尊重し、より質の高い医療を提供します。」という病院の理念に基づき、患者さんが安心できるサービスの提供を目指しております。来院された際のご不明な点やご要望は、受付窓口の職員にご遠慮なくご相談下さい。

経営企画室

経営企画室は病院経営の中長期計画及び年度計画の策定、経営指標の収集分析、経営改善の企画立案や、地域医療連携を推進するなどの業務を行っています。皆様が安心して受診できる病院の経営に努めます。



管理課長 佐合 弘至



企画課



企画課は病院の企画運営に携わる経理係、財務管理係、契約係と、医事に関わる算定・病歴係、医事係、地域医療連携係で構成されています。業務の一つとして、企画部門は健全な病院運営のために予算の運用管理や、病院で使用する医療用品から給食用の食材まで、様々な物品の管理などの業務を行っています。医事部門は入院および外来患者さんの受付、ご案内に始まり、診療費の計算やカルテなどの診療情報管理を行っています。

管理課

管理課は庶務係、給与係、厚生係で構成されています。主な業務として、職員の人事、給与、勤務時間、福利厚生、健康管理、建物管理等に関する業務を行っています。



トピックス

●第13回東名セミナーを開催しました

東名古屋病院が地域に開かれた病院に、また、患者さんや地域の皆様に親しまれる病院に生まれ変わろうとしていることをアピールし、地域の方や医療関係者の方々に役立つ、様々な医療情報を継続して発信することを目的として、10月21日(土)に第13回目の「東名セミナー」を開催しました。

メインテーマ:「あなたの肺は大丈夫？」

日時:平成29年10月21日(土) 13:30~16:00

場所:東名古屋病院 体育館

内容:当院主要科の一つである呼吸器内科医師3名の講演

講演① 冬に備えて「インフルエンザ・肺炎」のお話し……………垂水 修

講演② 息切れは齡(トシ)のせい?COPDとタバコのお話し……………林 悠太

講演③ 長引く咳や痰で悩んでいませんか?

~忘れちゃいけない結核、最近増えている肺MAC症~……中川 拓



今井常夫院長の開会の挨拶を皮切りに、メインテーマ「あなたの肺は大丈夫?」、呼吸器疾患に関する様々な症状について、当院の呼吸器内科医師3名が講演を行いました。当日は小雨が降り続くお足元の悪い中で、115名の皆様にご参加していただくことができ、職員一同、心からお礼申し上げます。

療育の紹介



療育指導室 保育士 橋本 美奈

当院北1階病棟には、重症心身障害児者の患者様（重い身体障害と重い知的障害をあわせもった方）が生活されています。私たち保育士は、他職種と協力しながら、患者様の基本的な生活習慣の支援、療育活動や季節行事の支援を行っています。

『保育士』というと、保育園で働いている印象があると思いますが、『福祉職』として多くの福祉施設で障害児の支援も行っています。北1階病棟は、病院としての役割だけでなく、障害者総合支援法、児童福祉法に定められている福祉サービスも提供しているので、病棟に『医療職』ではない保育士2名が配置されています。

そこで今回は、保育士が行っている『療育』について紹介したいと思います。

患者様は、入院が長期に渡る方も多く、病棟が治療の場としてだけでなく生活をする場でもあります。保育士は、生活の中での楽しみや気分転換を図るため、一人一人の発達を促すために療育を行います。日々の療育では、『音楽（歌・楽器等）』『リラクゼーション（足浴・スキンシップ等）』『スヌーズレン（リラックスした空間の中で楽しみやすい光、音楽、触感などの刺激を提供し、心地よい時間を過ごす）』『ムーブメント（遊具、玩具を使った活動を通して情緒的満足感や人との関わりによる社会性の支援）』のグループ活動や、就学前の幼児の発達促進のための個別療育を行っています。患者様は、音楽

を聞いたり、人とふれあうことで、笑顔になったり、声が出たり、体を動かしたり、その人ができる限りの表現で伝えてくれます。療育のかかわりの中で「こういう遊びが好きなんだ」「こんな表情をするんだ」と様々な発見があり、患者様から多くのことを学んでいます。

その他に、行事として誕生会、七五三、成人のお祝い、還暦のお祝い、クリスマス会、ボランティアによるコンサート、福祉タクシーを利用した外出（近隣のショッピングセンターや博物館等に出かけます）も行います。子どもや大人、濃厚な医療が必要な方、いろいろな患者様がいます。しかし、誰もが当たり前体験したり、感じたりすることを、患者様にも、当たり前味わっていただきたいと思っています。福祉職である保育士として、めりはりのある生活ができること、いろいろな体験ができること、その人らしく生活できることを大事にしていきたいと思っています。

今後も他職種（医師・看護師・療養介助員）と協力し、患者様が充実した日々が過ごせる様工夫を凝らした療育を行っていききたいと思います。

『療育』とは…医療の『療』と育成、教育の『育』を表しており、広い意味ではその人のQOL（生命、生活、人生の質）の向上を図るすべての活動をさします。狭い意味では、上記に挙げたより細かい活動のことをさします。

退院調整看護師の役割について

退院調整看護師 新里 映梨華



平成29年4月から退院調整看護師として地域連携室に配属になりました。退院調整を行う中で、患者さまの自己決定を実現するためには、患者・家族さまの希望に寄り添って社会資源の情報提供を行うこと、病院と在宅支援スタッフが連携を取っていくことが必要です。

患者・家族さまの希望に寄り添うには患者・家族さまの思いを聞くことが必要です。そのためには入院時や退院前の面談だけではなく必要に応じて定期的な面談も行わなければならなりません。そうすることで、信頼関係を築くことができ、その結果、患者・家族さまの思いに寄り添うことが出来ると思います。入院をされた患者・家族さまは、病気のことだけではなく、病院を退院した後の生活に対しても不安を抱えていることが多くあります。生活するうえでの問題点についても一緒に考えることができるように住宅状況についてもうかがい、その方にあった社会資源の情報提供やサービス調整のお手伝いをさせていただいています。

入院中、患者さまには医師や看護師だけではなく、薬剤師、リハビリスタッフ、栄養士など多くの職種が関わっており、その関わりの中で、それぞれが患者・家族さまの希望や訴えについての情報をいろいろな角度から得ています。関わったすべての職種が患者様の情報を共有することで、より患者様の希望に沿った内容の退院支援ができると考えます。入院時から多職種間でカンファレンスを行い情報共有し、それぞれが退院に向け、同じ目標を持って専門的な関わ

りを持つように努めています。その中で退院調整看護師の役割としてすべての職種間のマネジメントを担い、意見調整をすることで患者・家族さまの退院後の生活の安心につなげることが出来ると考えています。さらに、院内だけでなく在宅支援スタッフと情報共有を行い、連携を取ることで退院後の継続的な看護やサービスの調整につながるように努力しています。

今回11月に名東区内にある居宅事業所、老人保健施設、訪問看護ステーションへ実習に行く機会を得ました。在宅で生活する利用者・家族さまに対し、どんな関わりをしているか直接見させていただき、援助方法や、指導方法などを学ぶことが出来ました。また病院スタッフとして、在宅支援スタッフとどんな連携が必要か、実際の場面を通して学ぶことが出来て良かったと思います。患者さまが、病院から自宅へ退院する際には、入院中のアセスメントや指導内容が在宅でも継続して貰えるよう、在宅支援スタッフに継続して頂きたい内容を伝え、情報を共有し、時には意見交換を行える顔の見える関係が必要だと思います。そのためには、退院前カンファレンスを患者・家族さまを含め、多職種で行い情報共有し、共通理解する事が必要だと思います。このように、入院中から退院後の生活まで統一した看護ができるようにすることが退院調整看護師の役割だと思います。このことは地域包括ケアシステムの中でも大切だと言われていることの一つです。

外 来 案 内

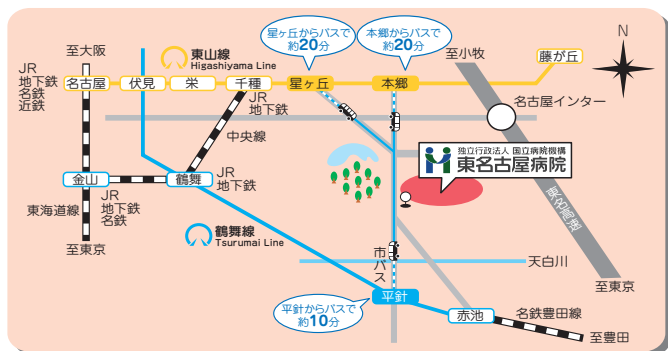
- 診療受付時間 午前8時30分～午前11時まで（緊急の場合はこの限りではありません）
- 診療開始時間 午前9時～
- 休 診 日 土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始（12月29日～1月3日）
- 初診時の特別料金 他の医療機関等からの紹介ではなく、直接当院に来院された患者さまは、初診にかかる費用として、2,160円（税込）をいただいております。ご了承下さい。ただし、緊急その他やむを得ない事情により他の医療機関からの紹介によらず来院された場合にあってはこの限りではありません。

外来診察担当医表

（平成30年1月1日現在）

診療科	月	火	水	木	金
呼吸器内科 (初診)	八木 光昭	福井 保太	林 悠太	山田 憲隆 中川 拓 第1・3 第2・4・5	垂水 修
	垂水 修		福井 保太	八木 光昭	林 悠太
	中川 拓	山田 憲隆	中川 拓 小川 賢二 第1・3 第2・4・5	小川 賢二	
呼吸器感染症専門外来		小川 賢二 第1・3 13:30～15:30			
循環器内科	三井 統子	野田 浩範	三井 統子	野田 浩範	西村 和之
神経内科 (初診)	犬飼 晃	横川 ゆき	橋本 里奈 片山 泰司 第1・3 第2・4	饗場 郁子	齋藤由扶子
	饗場 郁子	片山 泰司	犬飼 晃	齋藤由扶子	榊原 聡子
	横川 ゆき		榊原 聡子	橋本 里奈	
消化器内科	横井 美咲	高橋 宏尚	高橋 宏尚 小林 慶子 (交代制)	小林 慶子	高橋 宏尚 小林 慶子 (交代制)
呼吸器外科			山田 勝雄		
外科・消化器外科	渡邊 正範	加藤 俊之 野浪 敏明	和泉 孝明	永田 博 加藤 俊之	渡邊 正範
肛門外来	渡邊 正範	加藤 俊之	和泉 孝明	加藤 俊之	渡邊 正範
乳腺外科	遠藤登喜子 林 幸枝 8:30～11:00, 13:30～15:30	遠藤登喜子 8:30～11:00, 13:30～15:30	遠藤登喜子 8:30～11:00, 13:30～15:30	小川 弘俊 13:30～15:30 初診・健診はなし	遠藤登喜子 角田 伸行 8:30～11:00, 13:30～15:30
乳腺・内分泌外科				今井 常夫	
整形外科	金子真理子		祖父江康司	金子真理子	菱田 愛加
リウマチ科			祖父江康司		
脳神経外科					竹内 裕喜
泌尿器科	岡村 菊夫	青田 泰博	青田 泰博 岡村 菊夫 午前 13:30～15:30 女性泌尿器科外来	青田 泰博	岡村 菊夫
精神科					宇佐美 敏
総合内科		峯村 信嘉 横井 俊介 (交代制)		内海 眞	
血液・腫瘍内科	清水 一之	神谷 悦功	清水 一之	水谷 武史 小椋美知則 午前 午後(隔週)	神谷 悦功
禁煙外来		(予約制) 13:30～14:30			
内分泌内科					深見亜也子
小児科	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子
皮膚科	加藤 愛	加藤 愛	加藤 愛	田中 伸 第4 12:45～14:45	加藤 愛
歯科口腔外科	奥村 秀則	奥村 秀則	奥村 秀則	奥村 秀則	奥村 秀則
ドック	外来人間ドック (予約制)				
耳鼻いんこう科		伊藤 陽子	伊藤 陽子	伊藤 陽子	
補聴器外来		(予約制) 第1・3 14:00～15:30		(予約制) 第1・3 14:00～15:30	

※予約制は再来診の場合のみです。初診の場合は通常どおりの診療となります。
 ※救急診療は、時間外・休日も行っていきますので、時間外窓口にご連絡下さい。(052-801-1151)
 ※当院では、隔週月曜日に外来人間ドック（予約制）を行っておりますのでご利用下さい。
 ※セカンドオピニオン外来（予約制）を行っておりますのでご利用下さい。
 ※小児科・禁煙外来は完全予約制です。
 ※女性泌尿器科外来・乳腺外科・血液・腫瘍内科 午後（隔週）の受付時間は15:30までとなっております。



- 地下鉄東山線星ヶ丘駅下車
 - ・市バス③番のりば 東名古屋病院行き } 約15～25分 東名古屋病院にて下車
 - ・梅森荘行き
 - ・星ヶ丘よりタクシーにて約15分
- 名鉄豊田線・地下鉄鶴舞線赤池下車
 - ・タクシーにて約8分
- 地下鉄鶴舞線平針下車
 - ・市バス①番のりば本郷行き約10分 東名古屋病院にて下車
 - ・タクシーにて約8分
- 地下鉄東山線本郷駅下車
 - ・市バス①番のりば地下鉄平針行き 15～20分 東名古屋病院にて下車
- 東名高速道路名古屋インターより車で約20分